

デンマークに学ぶ高齢者福祉フォーラム 2014
リレートーク

出逢いと学びの宝庫、その熟成

デンマーク高齢者福祉の旅
静岡県 看護師：黒田 容美

★デンマークを中心に考えていたが…

みなさん、こんにちは。私は2000年（第9回）に参加した黒田容美と申します。

デンマーク研修は、同行した仲間にも恵まれ、非常に有意義な旅となりました。

帰国したばかりの頃の私は、その影響が大きく、その学びをどう伝え、現状をどう変えていったらいいのかと、デンマークを中心に考えていたように思います。しかし、当然ですが、思ったほどうまく伝えられない（伝わらない）、あまり理解を得られない状況に行き詰まりを感じ、「では、他の国はどうなっているのか？」という新たな疑問が湧いてきました。それが原動力となり、その後、カナダ、アメリカ、インド等へ、海外研修旅行に行きました。

★精神的な豊かさ、人としての幸福

その中で、2005年、インドのマザー・テレサの「死を待つ人の家」や障害者施設にボランティアに行った時のことが、今での印象に残っています。

当時のインドは、どこへ行っても埃が立ち込め、飲み水はすべてミネラルウォーターを購入しなければ下痢をしてしまう状況で、あまり衛生的でない環境でした。（最近の事情はあまりよく知りませんが。）

私の仕事は、入所者の衣類やベッドの寝具等の洗濯係でした。当然、洗濯機はなく、20名ほどのボランティアと一緒に、すべて手作業で行いました。大きな釜で衣類等を煮沸消



毒し、大きな水槽でゆすぎ、2人がかりで端と端を持って、絞って干します。

真っ白な衣類は一枚もなく、すべて茶色で、着古された感があり、穴が空いているものがほとんどでした。この場面だけを見ても、物質的な貧困について、深く考えさせられました。しかし、そのような中であっても、笑顔絶やさず、必死に生きようとしているインドの人々の姿を多く目にしてきました。物が豊富にあり、簡便に日々の生活を過ごすことができても、自殺者が25,000人を超える日本を思い浮かべながら、精神的な豊かさや、人としての幸福というものについて、深く考えさせられました。

★心に響いた言葉との出会い

帰国の前日、マザーハウスに貼ってあった

以下の言葉に出逢いました。
大切なのは
どれだけたくさんのかををしたか、ではなく、
どれだけ心をこめたかです。
遠くにいる人たちを愛するのは、
簡単なことです。
インドの飢えた人たちのことを考えるのも
とても簡単なことなのです。
あなたは、まず自分の家庭に、
次にお隣に、
そしてあなたの住んでいるところ、
それから、あなたの街に
目を向けなくてはなりません。
それから初めて外に向かうのです。(後略)

この言葉を読んだとき、これはインドだけではなく、デンマークに対しても同じことが言えるのだと感じました。

「いいな」「うらやましいな」と、
デンマークのことを考えるもの
とても簡単なことなのです。

時間を作り、お金をかけ、やっとデンマークに行くことができた…この経験は、私にとって特別なものです。しかし、これらの経験を経て、日本での日常の中で、それを考えることは簡単なことなのだ実感しました。もっと、足元を見つめ、身近な人の歴史、日本の文化を大切に、物事を考えて生活しなければ、と思いました。

★新たな自分の価値観との出会い

デンマーク研修から14年、ようやく私は自分の隣人や周囲に目を向けることができ、やっと外に向かいはじめた、と思っています。デンマークでの学び、インドでのボランティア活動…、これまでの経験すべてがなければ、今の私はありません。デンマークでの経験、それは新たな自分の価値観として根付き、豊かさとなり、今でも熟成しつつあります。



今、4年前に結婚した夫と、新たな価値観を携えて、再びデンマークへ訪問する日を夢見ています。